農委広報 いいで

No.37

〒999-0696
山形県西置賜郡飯豊町大字椿2888番地
飯豊町農業委員会事務局
TEL：0238-87-0525（直通）
FAX：0238-72-3827

目　次

◆ ご挨拶／農業の各種申請、補助金、農地の相談窓口を一本化 …… P2
◆ 「いいであぐりウーマンズ」多肉植物寄せ植え会開催！／山形県農業委員会女性の会総会…… P3
◆ 鈴木寛幸さん（椿）最優秀賞（山形県知事賞）受賞…… P4
◆ 「地域計画」策定に向けた経過と今後の流れについて…… P5
◆ がんばっています！青年農業者…… P6
◆ 農サポやまがたからお知らせ／転作の水張り問題と畑地化について…… P7
◆ 農地中間管理機構の賃料の取扱いについて／農業者年金／全国農業新聞購読の案内／編集後記 …… P8

全国農協青年組織協議会が主催する「第70回全国青年大会」が東京都の文京シビックホールで開催され、「JA青年組織活動実績発表全国大会」に「JA飯豊地区青年部の武田親祐さん」が東北・北海道ブロック代表として出場し、見事最優秀賞を受賞しました。武田さんは飯豊町の地域おこし協力隊として、中地区の農事組合法人沖のカモメで稲作を中心に頑張っています。

ご挨拶

飯豊町農業委員会 会長
安部数幸（中津川）

ようやく秋の気配を感じられる頃となり、皆様におかれましてはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素より農業委員会の活動につきまして、ご理解とご協力をいただいておりますす事に、心より感謝申し上げます。

さて、令和6年の幕開けは例年にないほどの小雪に始まり、春作業にも影響が出るほどの水不足となり水稲のみならず果樹や畑作物など広範囲にわたり高い気温による被害が拡大しました。恒久的になりつつある温暖化の影響が今後どのような形で現れるのか心配されます。

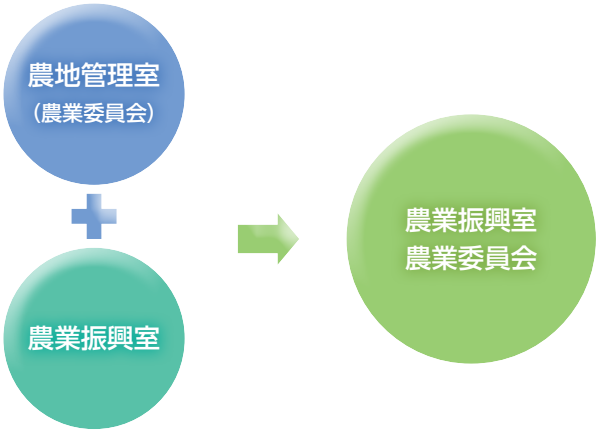
そんな厳しい中にあってうれしいニュースもありました。令和5年開催の米づくりプロジェクト食味コンクールに於いて前農業委員の鈴木寛幸氏が最優秀の県知事賞を受賞されたのです。この事は個人のみならず、飯豊町の農家の厳しい自然条件下にあっても、卓越した肥培管理や、技術の高さを内外に示してくれたものと思います。

令和6年度の年度初めに委員会にも変化がありました。機構改革により農業委員会と農業振興室が一つになり、職員が増えたことで丁寧でより早い事務対応が出来るものと考えております。委員会活動に於いても、農業経営基盤強化促進法に基づき、全国の市町村において、十年後の農地利用の将来像を示す地域計画の素案作りに取り組んでいるところであり、当町も策定委員、農業委員、推進委員からなる策定会議を町全体で2回、各地区ごとで1回程開催しており、今後各地区ごとのワークショップ、さらに町全体での会議を経てより実効性のある計画作りを進めて行く計画でありますので、委員各位の更なるご協力をお願い致します。目まぐるしく変わる農政、しかし現場は、肥・飼料等生産資材価格をはじめエネルギー価格の高騰が続き大変困難な状況下にあります。農業委員会としても、農業会議など系統での要請活動や行政に対する要請、情報等の提供など農業経営の持続と安定に向けた取り組みを考えていきます。

今後共、農業委員、推進委員、事務局一同、結束を図りながら職務にあたりますので、尚一層のご協力とご意見を賜りますようお願い申し上げます。

農業の各種申請、補助金、農地の相談窓口を一本化

町では、農業に係る各種申請、補助金や農地に関する相談窓口を一本化するため、これまでの農業振興室と農地管理室（農業委員会事務局）を１本化し、農業振興室としました。



これまで、農業振興の企画及び計画を担ってきた農業振興室と、農業の担い手、後継者対策及び農地の管理に係る農業委員会事務局を担ってきた農地管理室は、室間の連携を強固にして立ち向かっていく必要があり、それぞれの室が持つ情報とノウハウを共有し、活力あふれる農業の振興を図っていきます。併せて、令和６年度中の策定が求められている「地域計画（旧人・農地プラン）」には、これまでの農業振興室と農地管理室の情報を組み合わせることで、スムーズな策定を推進します。

【主な業務】

農業振興、生産調整、農業経営、畜産振興、地産地消、６次産業化推進、
農業委員会、農地の権利、農地転用、農業者年金、新規就農支援、担い手支援

「いいであぐりウーマンズ」多肉植物寄せ植え会開催！

いいであぐりウーマンズ、「多肉植物寄せ植え会」を開催しました。

飯豊町には町内で就農されている女性の方を中心とした、「いいであぐりウーマンズ」という団体があります。地元の方、移住者の方、メンバーはさまざま。ちょっとお茶のみしながら、農業の困りごとや解決策をおしゃべりしたり、ちょっとしたリフレッシュやお友達作りなど、定期的にお食事会やミニイベントを開催しています。

今回は、町内に移住しお花を育てていらっしゃる花き栽培会社の井上ナーセリーさんに多肉植物の寄せ植えを教えていただきました。公民館内で行う予定でしたが、天気が良く風が心地よかったので公民館外の木陰で実施。あっという間に時間が過ぎました。みなさん、思い思いに好きな多肉を植えて素敵な作品が完成。「水やりが大変なのよね？」「預けてもいいかしら？笑」「水やり頻度はどれくらい？」農業の合間のほっと一息。飯豊町にはこんな団体もあります。移住して就農した方もいらっしゃいますよ。就農相談、いつでもお待ちしています。「いいであぐりウーマンズ」も会員募集中です。

完成した寄せ植え作品

（問合せ先：農業委員会事務局　TEL：0238-87-0525）

山形県農業委員会女性の会総会

去る７月18日。山形ビッグウイングにて第16回山形県農業委員会女性の会通常総会・研修会が開催されました。本町から女性農業委員３名が出席しました。

今年は、総会の前に交流会もかねてテーブルごとに弁当を食べながら、他地域の女性委員の方と地域計画の進捗状況や様々な話題で盛り上がりました。

総会の後は、県内で活躍する女性農業者や女性農業委員の話を伺い、今後の委員としての活動に活かすための研修会ということで、お二人の事例発表がありました。

まず、寒河江市で農業委員をされている「お日様農園」の西尾沙織さんは、ご夫婦で少量多品種の野菜を栽培、周年で消費者へ直接届ける有機農業を営んでおられ、また農業委員としても自身の経験も踏まえながら新規就農を希望する若者のために尽力されていました。

次に鮭川村で特産の菌床なめこを生産されている女性農業者の熊谷由美子さんは、なめこの美味しさを伝えるためにマルシェ出店やSNSでのPRに力を入れ、更に地域活性化を目指し地元ならではのイベントの企画・開催をされていました。地元から愛される、かつ子供たちが地元を誇れるイベントにしたいというコンセプトを見事に体現なされていました。

お二人の農業にかける情熱やバイタリティに圧倒されながらも、女性ならではのアイデアや活躍が感じられ、とても有意義な研修会となりました。　（農業委員 渡部由美子）

山形おいしさ極める！
米づくりプロジェクト食味コンクール「はえぬき」部門
鈴木寛幸さん（椿）最優秀賞（山形県知事賞）受賞

令和６年３月、山形おいしさ極める！米づくりプロジェクト食味コンクール「はえぬき」部門で鈴木寛幸さん（椿）が最優秀賞（山形県知事賞）を受賞しました。

鈴木寛幸さんは稲作と野菜・果樹を含め約18haを、家族で営んでおられます。

昨年は気温が異常に高く飯豊地域では主力品種「はえぬき」の１等米比率が63.4％（JA山形おきたま値）と低くなる中、間断潅水を徹底し今までのノウハウを生かし、今回の受賞に至ったと振り返りました。特に、令和４年８月の豪雨により、住宅や作業機械が浸水被害にあい「米づくりが出来なくなるのではと、心が折れそうになったものの、続けてきたことで県知事賞を受賞することができて良かった」と優しい表情で語られました。

今回受賞されたはえぬきは、直播栽培によるもので、今後もより良い食味を目指していきたいと意気込んでおられました。

また、米づくりは毎年変化する自然条件に対応し、研究する事が大切と話し、山形県のつや姫マイスターとして米づくりの研修などにも率先して参加し、最新の情報を収集しているそうです。

２月からは株式会社林七を立ち上げ、代表取締役社長となり良質米の生産拡大を目指しておられます。

（取材／農業委員 齋藤祐一）

「地域計画」策定に向けた経過と今後の流れについて

飯豊町農業委員会 事務局　澤　菜瑠美

「地域計画」は、農業者や地域住民との話し合いにより策定する、将来の農地利用の姿を明確化した設計図です。本町では中・萩生・黒沢・椿・小白川・東部・西部・中津川の８地区に分かれて協議を行い、10年後の地域の農地利用の姿を示した「目標地図」を含めた地域計画を今年度中に作成していきます。

第２回策定委員会

昨年度の第１回策定委員会に引き続き、今年度も４月19日に町民総合センターあ～すで第２回策定委員会、６月６日から21日にかけて地区別に第３回策定委員会を開催し、農業委員・農地利用最適化推進委員・事務局が参加しました。

第２回策定委員会では、一般社団法人ふぁーむなかつがわによる事例紹介と、「日本で最も美しい村」連合資格委員会委員の山田泰司氏を講師に迎えての地区ごとのワークショップを行いました。ワークショップでは、「我が地区の名人・匠たち」、「（農業・食に関する）私が力を入れたい活動」、「農業や食に関して、新たな提案」の３つのテーマで、地域の食と農について様々な視点からアイデアや意見が出されました。

第３回策定委員会では、各地区の現状・課題、農地ごとの将来の状況について話し合いながら目標地図の素案作成に着手しました。今後は農業委員・農地利用最適化推進委員、地域の農業者や農業法人によるミニワークショップで目標地図の素案を作成し、事務局で総合的に内容をまとめながら今年度中の地域計画の完成をめざします。地域計画は策定してからがスタートとなりますので、策定後も計画の実行に向けて継続的な話し合いや地域一体となった取り組みへのご協力をお願いいたします。

地区ごとのワークショップ

シリーズ

がんばっています！ 青年農業者

今回紹介するのは、平成28年に神奈川県から家族で移住して就農した藤川直亮さんと陽子さんご夫妻です。

渡部　飯豊町で就農する前はどんな職業でしたか。

藤川　30歳まで市場で仲卸業、その後寺社の線香仏具等の営業を40歳まで行っていました。

渡部　農業を始めたいと思ったきっかけと飯豊町で就農したきっかけは何だったでしょうか。

藤川　市場で働いていた時に、一次産業の良さと可能性に希望と楽しさを見出し、その時にいろいろな農家さんのアドバイスの1つに、「災害の少ないところを選べ」と言われ、飯豊町で就農することを決めました。

渡部　現在栽培しているものはどんな作物でしょうか。

藤川　2月～11月にハウスと露地できゅうりを栽培しており、その他にブロッコリー、カリフラワー、ロマネスコ、とうもろこし、サニーリーフレタス、ほうれん草を栽培しています。

渡部　飯豊町で就農してこれまでに住んでみての感想を聞かせてください。

藤川　人が良くて農業するには素晴らしい土地ですが、その良さを生かしきれてないのがもったいないと思います。技術や知識は他県に比べ遅れているかなと思いました。

渡部　これまでの農業を振り返ってみてどうでしたか。

藤川　農業は答えのない世界で、個々の捉え方や目標、生活レベルで求めていることが全く違ってしまうのが農業だと感じており、地域、町、県、国としてもっと考察をしないと未来はないと思っているもののそこにビジネスチャンスがあると感じています。

渡部　最後に、今後の抱負をお聞かせください。

藤川　環境の変化や災害、人口減少等さまざまな課題があるが、だからこそ大きなチャンスが眠っており、一つ一つの問題と正面から取り組めば農業ほど楽しく儲かる仕事はないと思っています。また、それを可能にしてくれている町、地域の方々に感謝をしながら今後も頑張っていきます。

渡部　忙しい中、取材に応じていただきありがとうございました。これからも目標に向かって頑張ってください。

（取材／農業委員　渡部晃子）

農サポやまがたからお知らせです

※「農サポやまがた」は　やまがた農業支援センターの愛称です

令和7年から農地中間管理事業の利用には『手数料』のご負担をお願いします

◎手数料について

農地中間管理事業の運営には、やまがた農業支援センターの自主財源を一部充当している経費があり、この負担が年々増加しています。このため、将来に向けて持続的、安定的にこの事業をご利用いただけるよう、利用者の皆様に一部ご負担をお願いすることといたしました。

なにとぞ皆様のご理解とご協力をよろしくお願いします。

◎手数料の概要

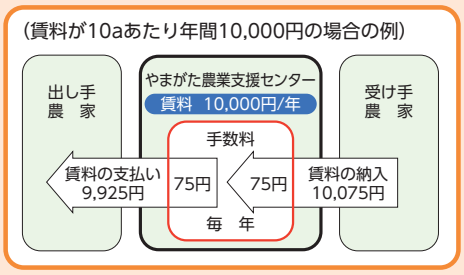
◆対象は令和６年10月以降に公告になる満期再契約及び、更新・新規契約から（直ちに全契約が対象になるものではありません）

◆納付いただくのは令和７年11月の賃料の支払い時点から

◆これ以降毎年、農地の出し手・受け手のそれぞれから納付

◆手数料の金額は毎年の賃料に0.75％を掛けた額

◎手数料納入のイメージ



（※10aあたり賃料が年間10,000円の場合の手数料は75円）

★詳しくはやまがた農業支援センター（023-631-0697）またはセンターのホームページをご覧ください。

転作の水張り問題と畑地化について

○水田活用の直接支払交付金

令和９年度以降、過去５年間に一度も水張りしない農地については、転作助成金（水田活用の直接支払交付金）の交付対象外となります。引き続き助成金の交付を受けるためには、令和８年度までに水稲の作付けを行うか、転作する農地に１ヶ月間水張りを実施し、現地確認または、写真による記録を行う必要があります。

○畑地化促進事業概要

今後、畑作物を固定的に作付し、かつ排水性等の理由により１か月の水張りが困難な農地については、「畑地化促進事業」の活用を検討ください。

１．事業概要

事業メニュー	対象作物	交付金額（R6時点）	備考
畑地化支援 ※水活交付金は、以降対象外となります。	・高収益作物 （野菜・果樹・花き 等） ・畑作物 （そば、大豆、小麦、飼料作物 等）	14万円/10a	交付単価はR6時点のものとなります。 R7以降は作物区分ごとに単価の変動の可能性がありますので、ご了承ください。
定着促進支援 ※畑地化定着に向けて５年間支援します。		２万円/10a×５年 または 10万円/10a(一括)	

２．畑地化申請に向けた要件等（令和６年度時点の運用のため、変更の場合があります。）

（１）畦畔及び用水供給整備（水路等）を有する農地であること。（確認書類：ほ場写真）

（２）借地の農地の場合、土地所有者から同意を得ていること。（確認書類：同意書）

（３）概ね団地化されていること。（複数筆であること。）

→必ずしも隣接してなくても、同地区内の場合、団地とみなすことがあります。

また、他者の転作地と隣接していた場合も、団地とみなすことがあります。

（４）地域の関係機関から合意を得ていること（農業委員、土地改良区 等）

（５）前年度において、主食用米、水田活用の直接支払交付金の交付対象作物を作付していること。

（６）５年間は申請した作物区分（高収益作物、畑作物）の作物を作付すること。

令和6年度大雨災害における農地中間管理機構の賃料の取扱いについて

令和６年７月25日からの大雨災害により被害に遭われた皆様に対しまして、心よりお見舞い申し上げます。

農地中間管理機構を通じて賃貸借を行っている農地が大雨災害により被害があった場合、受け手（借受者）と出し手（貸付者）の同意により賃料の減額申請をすることができます。

大雨災害による賃料の減額申請又は支払い猶予申請について以下の通りお知らせ致します。

〇対象年度　原則令和６年度とする。
〇申請期限　令和６年９月20日㈮
〇支払猶予後の振替日　令和７年３月３日㈪
〇申請先　飯豊町農林振興課農業振興室　TEL：0238-87-0525

◆事務局体制

事務局長	舘石　修
局長補佐	佐藤　智昭
主　査	澤　菜瑠美
主　事	下條　洋平
主　事	桐生　竜也
主　事	鷲尾　拓也
主事補	鈴木　慎
主　事	大谷部良明
会計年度任用職員	大城　陽子
会計年度任用職員	安仲　智浩

◆事務局職員人事異動

〈新採〉鈴木　慎

〈転入〉
舘石　修（企画課から）
佐藤　智昭（総務課防災管財室から）
よろしくお願いします

〈転出〉
竹田　辰秀
（町民総合センター「あ～す」へ）
手塚　寿子
（町民総合センター「あ～す」へ）
大変お世話になりました

農地法許可申請締切日（農地に関する申請）

【総会開催予定】

許可申請書締切日	総会予定日
９月10日㈫	９月25日㈬
10月10日㈭	10月25日㈮
11月11日㈪	11月25日㈪
12月10日㈫	12月25日㈬
１月10日㈮	１月27日㈪
２月10日㈪	２月25日㈫
３月10日㈪	３月25日㈫

※各種許可申請等は、上記の締切日までご提出ください。

農業者年金がさらに便利になります！

①保険料が引き下げられます
35歳未満の方は月額１万円から加入できます

②受給開始時期の選択肢が広がります
老齢年金：65歳以上75歳未満
特例付加年金：65歳以上（年齢上限なし）

③加入可能年齢が引き上げられます
60歳以上65歳未満の方も加入できます

お申し込み先
飯豊町農業委員会事務局
☎0238-87-0525

農家の経営と暮らしに役立つ情報をお届けします。

農家のための情報誌
「全国農業新聞」

●発行日：毎週金曜日
●発行元：全国農業会議所
●購読料：１ヶ月700円（送料込）

お申し込み先
飯豊町農業委員会事務局
☎0238-87-0525

編集後記

地域計画も大詰めとなりました。協力いただいた皆様ありがとうございます。

農業委員会も県の講習会にも何回も出席し、更に先進地の寒河江市・朝日町に視察に行ったりと奮闘してまいりました。

これからも飯豊町の農業発展のために活躍してまいります。

（広報委員長　遠藤智行）

◆広報委員会メンバー
◎遠藤　智行
〇渡部　晃子・齋藤　祐一
二瓶　幸浩・安部　数幸
（◎委員長 〇副委員長）

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

この広報紙は再生紙を使用し、植物油インキで印刷しています。

編集・発行：飯豊町農業委員会事務局　〒999-0696 山形県西置賜郡飯豊町大字椿2888番地 TEL：0238-87-0525（直通）FAX：0238-72-3827 印刷：㈱青葉堂印刷